

チェルノブイリ通信

2015年3月25日

No.99

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26バステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jim@cher9.to
Website <http://www.cher9.to/>



■口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャス支店(支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店(支店番号106) (普) 1030416

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。



スイスでの保養プログラムに参加したベラルーシの子どもたち

特集：東日本大震災から4年

あなたならどうする？
震災後に避難移住を選択したママのお話
送料サービスの金額変更のお知らせ
事務局日誌より主な活動報告

コーヒーキャンペーンのご案内
2015年度通常総会報告
募金者のお名前とメッセージ

あなたならどうする？

震災後に避難移住を選択したママのお話



ますよね」と当時を振り返る。

「避難するかもしれない」

夫の実家（石川県羽咋市）へ夜中に電話したところ、その数

時間後に義理の両親が迎えに来てくれた。

「行く勇気はなかったんだけど、義父母が来てくれたから、もう拉致される感じで避難した（笑）。やっぱり皆、日常生活から離れられないから、仕事に行かなきゃいけないって思っちゃった」

夫は一人埼玉に残ることになり、雨が降る中、濡れないようにストールを巻いて子どもを抱っこし、持てる荷物を持って、愛さんは羽咋へ向かった。

「チューリップが咲いたよ」お祝いにイヌをもらったよ」

夫と離れている間は、携帯電話で写真撮って近況を送り合った。そして約一か月後、愛さんは再び埼玉へ戻る。幼い子どもを被曝から守るため、様々な対策を講じた。水道水からヨウ素、セシウムが検出されるといふニュースがあったので、鹿児島からペットボトル入

未曾有の被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災、福島第一原発事故から4年。震災後、福島、東北だけでなく関東各地からも、西日本、九州への避難移住を選択した人たちがいることを知っていますか？ 震災後に埼玉県から福岡県福津市への移住を決断した一人のお母さんのお話を紹介します。



平穏な生活を一変させた大震災

震災前、安達愛さんは埼玉県志木市で暮らしていた。志木駅から徒歩5分の自宅は、畑に囲まれた平屋のお家（下写真）。すぐ近くには大家さんの畑や竹林が広がり、都会にいなながら田舎暮らしをしているような楽しい日々を送っていた。そんな中、子ども



が生まれる。初めての育児に奮闘していた2011年3月に地震が発生。自宅にいた愛さんは激しい揺れを感じ、スリッパを履いたまま畑に出て、柵にハマりながら地震が鎮まるのを待った。テレビでは絶えず津波が押し寄せる映像が繰り返される。

「東北で暮らす親戚の人たちはどうしているんだろう？」

津波の映像を目にすると、愛さんは今でも震えてしまうという。地震が起きたときに一番心配だったのは、静岡

県の浜岡原発。浜岡で重大な事故が起きたら、首都圏にも被害が及ぶかもしれない、それが怖かった。現実には福島第一原発での事故だった。夫は2日間、千葉県の職場から帰ってこれなかった。生後数か月の子とも二人で夫の帰りを待つ。でも大家さんや近所の人たちが心配して訪ねてきてくれたから気持ち少し楽になった。それから災害時の知識も役に立った。お風呂に満タンに水を貯め、停電に備えてご飯を炊いておにぎりを作る。そうした備えを友だちにも電話で伝えた。

みえない放射能から子どもを守る

3月15日の天気予報。埼玉県は通常の40倍の放射線が降ります、というニュース。原発について多少の知識があった愛さんだが、「急に桁違いの数字が出てきたら、誰でも直感的に怖いと思

りの水を取り寄せた。部屋はいつもその段ボールの山だった。テレビで花粉症対策と同じように対処すると良いと聞き、外出時はなるべく皮膚が外気に触れないように気を付けた。野菜も九州や北海道から取り寄せた。晴れの日も毎日毎日、洗濯物は室内に干した。そしてある時、夫の会社から放射線の測定器を借り、家の中を測ってみた。ピピピピ…。内部被曝に気を付けていればいいと思って生活していたが、その感知音を聴いた途端に怖くなった。

ネット上では、千葉や都内で母乳から放射性セシウムが検出されたという情報が出ていた。移住を考えたほうがいいんじゃないか？ 次第にそう考えるようになった頃、子どもの尿検査ができるという話を聞いた。検査費用の5万円は祖父が賄ってくれることになり、測ってみることにした。数値化され



た検査結果は後日封書で送られてくる。それを待つのはすごく不安だった。果たしてわが子は陰性だった。だが予め夫とは次のように話し合っていた。たとえ放射性物質が検出されなかったとしても、子どものために移住しよう。

原発しか選べないのは不公平だよ

関東に居る間は、東京でのデモにも参加した。

「ラーメンが食べたーい」「おいしいお酒が飲みたーい」

飲食店の前を通る際に福島の女性が発したシブレビコールだ。最初は皆も続いていた。だが彼女にとっては、自分の故郷の美味しいものを食べる必要がないという悲痛な叫びだった。

「ふるさとを返せー」

続く涙ながらの当事者のその叫びに、周囲はもはや言葉を続けることができなかつた。

福島原発事故で被害に遭った人は大勢いる。でもたとえ事故が起きなくとも、原発の原料となるウランを採掘する鉱山では、労働者や近隣住民への

被曝のリスクは避けられない。この現実をどれだけの人を知っているだろうか。20代でこうした問題を知った愛さんは、難しいことぬきに「原発はいやだ」と思うようになった。

「人生は選んでいいと言われていたのに、原発以外のエネルギーを選んじやいけないなんて全然フェアじゃない」

むろん原発だけではない。世界の紛争で犠牲になる子どもたち、異常気象、遺伝子組み換え作物や食品添加物…。大量生産・大量消費の社会が生み出しているものに私たちは目を背けがちだ。

「原発なんてさっさと止めたい。他に解決しなきゃいけない問題が山ほどあるのだから」

愛さん一家は移住先を探すため友人のつてを頼り、初めての福岡、そして宮崎や沖縄にも訪れた。そんな中、子どものために一冊の絵本、レオⅡレオⅡの『あそぼうよ』を購入した。本を読んだり、木に登ったり、葉っぱを集めたり…。そこには色々なあそびの様子が描かれている。

「これができない。放射能が気になつて私にはできない」

愛さんはそう感じた。

何気ない日常を手放してはいけない

そして再び福岡へ。海辺での砂遊び。星空のようにシロツメクサの咲く公園では、わが子だけでなく、多くの子どもたちが楽しげに、仔犬のように転げまわる。

「なんて平和な光景なんだろう。なんて幸せなんだろう」

目前に広がる、このごく普通の暮らしを守りたい。もう今以上に失いたくない。そう強く感じた愛さんは、2012年5月にこの地への移住を決意する。

現在愛さんは、4歳になったお子さんと二人で福岡県福津市内に暮らし、夫は千葉県での単身生活という二重の生活だ。避難移住を選択した人々にとつて愛さんのようなケースは決してめずらしいものではない。将来的には夫も福岡へ呼び寄せて再び親子3人で暮らしたいと考えている。

「悔しい思いがある。でも、ここででき



ることはたくさんある。今まで自分が得てきたことをどんどん周りの人たちに身近なものとして感じてもらうって、仲間を増やしたい」

そう考えた愛さんは、ママさん向けの環境講座を開講したり、農家の友達から仕入れた野菜を使って自分の時間を作るための料理教室を開いたりなど、持ち前の行動力とその陽気さで仲間を増やし、忙しくも楽しく充実した毎日を送っている。

「自然の中であそんだり、花を摘んだり、子どもの誕生日を祝ったり、お菓子を作ったり、木の実を集めてリースを作ったりとか、毎日の何

気ない出来事せんぶが、本当にありがたく、どれだけ幸せに暮らしているんだろうと思う。そのありがたさに気づいてほしい。これは一瞬で失われうるものだから。福島ではそれが失われてしまった。そう思うと苦しくなる」

移住先の福津市は、佐賀県の玄海原内からの直線距離で約66キロ。これは福島第一原発にあてはめると福島県内の距離だ。また鹿児島県には川内原発もある。愛さんの体験談は九州の人たちにとっても決して他人事ではない。避難移住を選択した一人の体験者として、愛さんはこう話す。

「避難移住という選択をした人もいるし、しなかった人、それにできなかった人もいる。私の周りにも関東や郡山とかから避難してきたママたちがたくさんいる。それぞれクセや個性があるけど、皆ごく普通のお母さん。私は福津に来て、この地に一生住み続けたいという気持ちを抱くようになった。移住したほうがいいと説かれても今も汚染さ

れた土地を離れることができない人たちの気持ちが初めてわかったような気がする。

私の体験は「安達愛」になったつもりで聞いてほしいし、自分の身にも起こりうることで受け止めてほしい。そして、一緒に考える仲間がもっとも増えてほしい」

(※2015年2月26日に開催された、陽だまりたんぼぼ主催のお話会での記録をもとに編集しています)

陽だまりたんぼぼって？

福岡県宗像市、福津市、古賀市、新宮町を中心に、3.11後、東日本からの避難ママたちと地元ママたちが手をつないで活動しています。

子どもを被曝から守るため、一大決心をして遠く福岡に避難して来たママたちを、風に乗って飛んで来た種がしっかり根付いて逞しく生きるたんぼぼに重ねて「陽だまりたんぼぼ」と名付けました。

キャンプ、みかん狩りなどのイベントや、茶話会、勉強会などを不定期に開催しています。



重要：送料サービスの金額変更のお知らせ

いつもお買い物を通じてのチェルノブイリ支援にご協力を賜り、誠にありがとうございます。このたび、送料無料適用となる金額の引き上げをさせていただくことになりました。

これまではお買上げ総額が5,000円以上で送料無料とさせていただいておりましたが、**2015年4月15日(水)より、お買上げ総額が7,000円以上の場合に送料無料とさせていただきます。**

なお今後の更なる消費税増税に伴い、将来的に再度の適用金額変更の可能性もございます。いつもご利用いただいております皆さまにおかれましてはご負担をおかけしてしまい誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

事務局日誌より 主な活動報告



◆10月5日 ハートフルフェスタ福岡2014



人権問題に取り組み団体や国際協力NGOなどが参加する毎年恒例のフェスタです。今回は交流ブースとフリーマーケットに参加し、それぞれのブースで活動紹介や関連グッズの販売などを行いました。複数のボランティアアスタツの方々にも協力していただきました。

ボランティアさんも大活躍

◆11月15日 地球市民どんたく2014



福岡を中心に活動する国際協力団体が一堂に会し、それぞれの活動をアピールしました。また別会場では、参加団体による様々なワークショップも開催されました。CMNでは、昨年につづき訪ベラ帰国報告会とマトリョーシカ絵付け体験会を実施しました。

ブースでの活動紹介

◆11月23日 第26回和白干潟まつり



福岡市東区の和白干潟にて開催されたお祭りに今年も参加しました。今回は良いお天気に恵まれました。参加団体によるバザーや活動アピールのほか、バードウォッチングや干潟の植物観察など、小さいお子さんから大人の方まで楽しむことができる一日でした。

開会式のようす

◆11月29日 レオナルドさん来日講演会



CMNの支援コーヒーでもお馴染みの、メキシコトセパンコーヒーの生産者組合より、レオナルド・ドウランさんが来日され、全国講演ツアーが行われました。福岡市博多区、北九州市での催しでは、CMNも活動紹介ブースを出展させていただきました。

活動紹介をする平川理事

◆1月12日 フェアトレード試食会



福岡県NPO・ボランティアセンターにて、フェアトレードのコーヒー、紅茶、チョコレートを試飲・試食会が開催され、CMNも活動紹介ブースを出展し、取扱商品の紹介・販売をしました。20種類以上のチョコレートの食べ比べもあり、心もお腹も満たされました。

参加団体、主催者の皆さんと記念撮影

☺ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ☺

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？

キャンペーン期間中、コーヒー・紅茶、のぞみ21商品などを合計8,000円以上ご注文いただいた先着10名の方にフェアトレードチョコレートをプレゼントします！

お買い上げ総額5,000円以上（※）で送料無料となります。ご注文は電話、ファックス、メール等でお気軽に事務局までどうぞ。

期間 2015年3月24日（火）～4月14日（火）まで



※2015年4月15日以降は、お買い上げ総額が7,000円以上の場合に送料無料とさせていただきます。詳しくは4Pをご参照ください。

2015年度

総会

報告

2月 14日(土)、古賀市中央公民館研修棟103号室にて、2015年度通常総会を開催し、昨年度の事業報告・活動決算報告及び、今年度の事業計画・活動予算についての協議、承認が行われました。

スペースの都合上、簡単な報告となっております。詳しい資料は、団体ウェブサイトに掲載しています。またご希望の方には総会資料を送付しますので、事務局までお気軽にご連絡ください。

http://www.cher9.to/kako_katudo.html



一年間のふり返り、今後へ向けて・・・

2014年度の海外支援事業としては、ベラルーシ共和国へ医療検診団・調査団を派遣し、甲状腺がん検診、甲状腺内視鏡手術等を実施しました。詳しくは本紙バックナンバーにて報告しておりますので省略させていただきます。

国内では、講演会の開催、会報誌の発行等を実施し、ベラルーシやチェルノブイリ、東日本大震災被災地域の現状について情報を発信しました。また福祉工房「のぞみ21」商品やフェアトレード商品、震災支援グッズ、オリジナルカレンダー等の紹介・販売を行い、お買い物を通じた支援を呼びかけました。

2015年度も引き続き、被災地から必要とされる支援活動を展開し、会員の皆さま、支援者の皆さまへ現地の様子をお伝えできるよう、スタッフ一同頑張っております。

【海外事業】

- * ベラルーシ共和国への医療検診団・調査団派遣
- * 福祉工房「のぞみ21」、NGO「コンフィデンス」への支援

【国内事業】

- * 東日本大震災に対する支援
- * 講演会、チャリティーイベント等の企画・運営
- * 機関紙発行、講師派遣や国際協カイベント等への参加を通じての情報発信
- * 物品販売（フェアトレード商品、オリジナルカレンダーなど）



2015年度運営体制

理事長	寺嶋悠
副理事長	和田幸策
理事	河上雅夫、小山浩一、吉本美貴、川原秀之、小川峰湖、平川可南子
監事	本田正之
事務局	川原秀之、三島さとこ

2月15日付で理事長及び副理事長が交代しました。

2014年度活動決算書(2014/1/1~12/31)及び2015年度活動予算書(2015/1/1~12/31)

(単位:円)

科目	2014年度決算		2015年度予算		
経常収益					
1. 受取会費					
正会員受取会費	132,000	132,000	129,000	129,000	
2. 受取寄付金					
活動支援金	5,301,997		4,800,000		
のぞみ21カンパ	134,800		118,000		
雪だるま3号カンパ	99,000		100,000		
震災支援カンパ	311,460	5,963,367	300,000	5,318,000	
3. 事業収益(※1)					
のぞみ21支援事業	327,080		300,000		
震災支援事業	12,150		10,000		
物品販売事業	313,260		1,000,000		
イベント企画・運営事業	65,000		125,000		
フェアトレード事業	1,086,859	1,804,349	1,000,000	2,435,000	
4. 受取助成金等					
受取民間助成金	245,000	245,000	50,000	50,000	
5. その他収益					
受取利息等	7,057	7,057	10,000	10,000	
経常収益計			8,151,773		7,942,000
経常費用					
1. 事業費(※2)					
訪ベラ事業	3,539,231		2,954,017		
のぞみ21支援事業	688,819		433,169		
震災支援事業	236,113		143,933		
会報発行事業	1,888,201		1,531,726		
物品販売事業	452,013		783,656		
イベント企画・運営事業	659,507		577,460		
その他の情報提供事業	76,216		43,887		
フェアトレード事業	1,349,532	8,889,632	1,206,756	7,674,604	
2. 管理費					
人件費	46,708		38,270		
その他経費	128,048	174,756	143,126	181,396	
経常費用計			9,064,388		7,856,000
当期経常増減額			-912,615		86,000
税引前当期正味財産増減額			-912,615		86,000
法人税、住民税及び事業税			81,000		81,000
当期正味財産増減額			-993,615		5,000
前期繰越正味財産額			7,430,547		6,436,932
次期繰越正味財産額			6,436,932		6,441,932

※1) 各事業収益の内訳は次のとおりです。【のぞみ21支援:のぞみ21商品売上】【震災支援:缶バッジ売上】【物品販売:カレンダー及び書籍売上】
【イベント企画・運営:講演会等の参加費収入】【フェアトレード:コーヒー・紅茶売上】

※2) 人件費(給料手当、雑給、法定福利費、支払報酬)を含めた金額です。また水道光熱費や支払地代家賃等の共通経費も按分されています。

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

相川美智子 浅井由美子 浅原望樹 植田清子 江藤俊一 榎本みづ枝 大池葉子 大谷正穂 小川令美 沖佐和子 小野直子 梶原孝子 勝本芳子 (株)モノダスサンコー 桑原千鶴子 古賀輝洋 小林知子 小山記念病院理事長 小山典宏 佐々木悦子 佐藤和子 佐藤久美 渋谷けい子 清水一雄 庄籠道子 白石育子 白水明代 関根敏子 高橋武三 高山幸子 竹田恵子 中川洋慶 中村順子 中村幸枝 中本博子 西嶋香穂子 西山千代乃 覚正寺 日本キリスト教会折尾伝道所 野中孝子 林田英明 日高太 廣橋富士枝 深堀ミチ子 藤田達子 藤本竜子 本田美穂子 前田育子 榊田千絵 松井由美子 丸山さより 村上和代 めぐみ保育園 本岡眞利子 過足智子 吉元京子 和田由理 和田茉莉恵 渡辺雅宏

〔北海道〕	1名	〔宮城県〕	1名
〔茨城県〕	2名	〔埼玉県〕	1名
〔東京都〕	9名	〔神奈川県〕	2名
〔富山県〕	1名	〔静岡県〕	3名
〔三重県〕	1名	〔大阪府〕	2名
〔鳥取県〕	1名	〔島根県〕	5名
〔広島県〕	10名	〔山口県〕	14名
〔福岡県〕	72名	〔佐賀県〕	3名
〔熊本県〕	10名	〔大分県〕	11名
〔鹿児島県〕	5名	〔沖縄県〕	1名

計172名(匿名含む)

合計	1,771,608円
活動支援金	1,605,708円
のぞみ21カンパ	32,950円
雪だるま3号カンパ	23,950円
東日本支援カンパ	109,000円

●マンスリーサポーターの皆さん

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大塚卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津悠子 斎藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男 由利子 朱加 綱脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 廣松初美 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本竜子 藤本孝子 洲田三輝 古川恵子 松井真知子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村田聡子 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉丸隆子 渡邊久美子 渡邊真志子

計125名(匿名含む)

(2014年11月1日〜2015年1月31日までに募金をして下さった方、ならびに商品購入を通じて活動を支援して下さいました方です。同封の振込用紙の「氏名掲載欄」で、「可」の部分に○印をして下さった方々をご紹介します。掲載を許可される方はぜひご記入をお願いいたします。なおコンビニやネットバンクからのお振込み等については、許可が確認できなかったものとして、掲載しておりません。募金者名の掲載をご希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●皆様の地道な活動に頭が下がります。●年末最後になりました。来年もよろしく願います。よいお年を…。●少しですが活動支援に使って下さい。●自分にできることは何か、いつも考えています。●昨年終戦記念日に生まれた孫娘へのプレゼントとして、マトリョーシカを買いました。平和への思いを込めて…。●ずっと見守っています。笑顔が増えますように。●年に1回だけでごめんなさい。少しですがお役立て下さい。●福島等でもたちに甲狀腺異常が多発していること、心配です。●カレンダーをありがとうございます。●「ナージャにとって放射能のことより、友だちがいなくなったことのほうが悲しい」というメッセージに「そうだよねえ…」。被災された方々の気持ちがわかる気がしました。●スタッフの方々も含めてどうぞお身体を大切に。●チエルノブイリに思いをはせて、(コーヒーを)味わっていただきます。

お知らせ

ゆづちゅ銀行またはコンビニ用の振込用紙は毎号同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込めるように、毎号同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不用な方は処分をお願いいたします。

編集後記

今回の特集記事はいかがでしたでしょうか? ご意見やご感想などがあればお寄せください。さて、1990年8月に発行した機関紙第1号から数え、次はいよいよ100号です。ちょっと歴史を感じます。なお次号より紙面仕様を変更する予定です。より読みやすい紙面づくりを目指してこれからも頑張りますので、引き続きご支援をお願いいたします。(み)

★株式会社カタログハウス様より、100万円の運営支援カンパをいただきました。心よりお礼申し上げます。